

1978年4月号

昭和53年4月5日発行(毎月1回5日発行)

No.25

あんふあんて

発行人/ 発行所/ あんふあんて出版部
定価/ 100円 振替口座/ あんふあんての会

逐次刊行物

昭 53.7.16

国立婦人教育館
情報図書室

詩

神田
東富谷

今日の
旅路は つかった
おふいひもを はずすだけ
ついに ここまで 来ちまった
帰りの ひかり号も つかろう

車内の 視線は 痛かった
新聞の 投書欄も 言っている
いまどきの 若い母親 なつとらん
しつけを しっかりせいと 外野席

ガキⅡへ 母乳やりたいが 場所がない
オムツも 狭い座席で 替えにくい
ガキⅠは 車内探險 ヨチヨチと
隣の 車輪へ すがた消す

ガキⅡを 亭主に いかせて
ガキⅠを さがしに 行ったなら
ここらは 幼稚園じゃ ないんだよ
どこかで ささやく 声がする

だけど みなさん わかつてよ
5時間 6時間も ガキたちは
がまん できない ひかり号
せめて ほしな ベビーカーナ
(替え歌シリーズ・山谷ブルースの)
メロディーで歌ってみて下さい

新幹線哀歌



共同保育考



あふふあふのスタート当時、共同保育という言葉が耳新しく「さあー共同保育をしよう。」と集まってみたものの、何の手本となるものもなく、本当に私達にできるのだろうか？という不安ばかりがありました。でもその頃はそれだけに共同保育って何だろうか？どうやればいいのか？と頭を寄せ合って考えたものでした。3年目を迎えた今、少しづつ形が見え始めてきたところで、私達の共同保育は又、これでいいのだろうか？というひとつの壁につきあたっているような気がするのです。

A クロワッサンやいろんな本で預け合う事がポピュラーになりすぎて、預け合いっこはすぐ出来るように考えられてしまったけど、でも、そんなに預け合いっこを、簡単なものとして「あふふあふ」はやっぱりやりたくないよね。

B 共同保育って言葉がすごく一般的になりすぎちゃって、預け合いっこが共同保育みたいになって、「私、子ども預けたいから共同保育やらない？」って、感じだしね。G そうね。はじめの頃は何の手本もなく、何がなんだかわからなかったけど、でも、よ

B 私は最初どうだったか、忘れちゃったなあ。

A やっぱり始めを、こたわっていきべきだと思ふよ。スタートが、どんなだったか一人一人が振り返っていつも刻んでおいて、新しい人へ伝えていくべきだと思ふんだ。泣く事を、どう乗り越えたか、それをどうとらえたかってことは、とっても大切なことだし、そこいらを伝えていかないと、新しい人にさあーやりなさいっていつてもやっぱり、出来ないと思ふよ。いろんな子どもタイプがあつて、初めの反応はさまざまだけど、少なくとも私達の経験で100位の事は皆で伝えられると思ふし……。

K 共同保育がつぶれちゃうパターンっていろいろあると思ふけど、Eさんの場合、何回呼びかけても結局うまくいかないのはどうして？

E 思い入れが違うっていうのかな……。子どもと離れる必要性を感じる人が少ないし、定期的にやろうって気持ちの人もいなくて、少し続いても妊娠や出産を境にこなくなっちゃう。

D 私なんかも用事があるから、外出日は少しと思つていて、一諸にやろうって人は、外出しなくても子どもといふからいいという人が多くて、結局、こっちは出かけられなくなっちゃって、共同保育の日も日常と同じように一日中子どもにべったりしていてあまり意味を感じなくなつた。

く話し合つたし、わからないなりに自分の思い入れとつなげたいみたいところは、ありましたよ。

B 共同保育から女の問題や生活の問題の輪が広がっていつてくれるだろうと思つていたけど、でも、何も広がらなくて、新会員の人は、共同保育を伝えたくても今の段階では何も伝えられないし、入ってきた人は、もっと簡単に、預け合いっこを考えてくる人も多いし、そんな人達に、何が、どう、伝えられるかって問題がありますね。

C 私のところは、1年位続いてきて、荷物預り的な共同保育じゃないんだって考え始めたら人も増えてきたけど、あいかわらず預け合いっこだけでいいって人も多いんです。

A 本当は、軌道にのつてうまくやる事って、あんまり意味がないような気がするけど、でもハウ・ツー式な方法だけが進んじやうのね。時間の事とか当番のこととか。そこがうまく廻ると全体的にうまくいってると感じになるし、だけど、そんな中からこれだけののこつて、疑問はでてると思ふけど、それをどう伝え合つていけるかってことだろうね。

B でも、やっぱり、子供にはいい時間を与えたいと思ふ。それは変わらないから……いい時間って何だ？って考えるとそこからのスタートぐらいじゃないかな？

A そのいい時間っていう事で考えるんだけど、一例で、泣くのが悪い状態、泣かない事がいい状態だ？って考えが一般的にあると思ふの。共同保育を2・3回経験していくと泣かしてもいいんだなって判ってくると思ふ。

C 私のところも、子どもを預けて何かやりた

いという人は少ない。だから用事があつて出かける事が、かえつておかしいみたいでしよう。やっぱり共同保育を通して働けるんだみたいな思いだしたわけ？

G いや、子どもの年齢が大きくなって保育園に、預けられるようになったからという人が働きにいつてくるんです。でも、共同保育はぬけても、あふふあふには入つていて場所の確保なんかの負担はしてくれま

A 働きにいつても、そのグループに残つてかかわつていくのはとてもいい例だね。このグループの特長だと思ふけど。

G 団地で住いが近いからいろいろ出来るのね。ご飯を一諸に食べたり、夜まで遊んだり。だけど、それも子育てを通してだから子育ての時期が終わつたら、どうやってつないでいけるのかなあーと思ふけど。子どもを育て合いながら、何かもう一つのつながりが持てたらいいなあーとおもいますね。

B 一番、難しいのは、そこね。親同志がどこでつながつていけるのかなあーと私なんかも考えるけど。

C 私も団地ですけど、団地だと顔を知つていた者同士がはじめてでしよう。お互いにかつていて、日常でもつき合ひがあるけど、それ以上のところまでつながっていくとなると、とても難しい。やっぱり気まぐしくなりたくないし、でも、このごろは夜ミィティングをしたりして、これからの話も出てくるようになりました。

B 話し合いの時間がなにしる少ないのね。

うんだ。やっぱりそこをこえていかないと一口に、いい時間って同じように伝わるな

いと思ふよ。

B 私なんか、どちらかといえば泣かない子どもで、泣かれて困つた経験がないけど、でも泣く子と泣かない子の親とでは気持ちの負担はすごく違うだろうな。って感じるね。

F 泣く子をもつた親の気持ちを泣かない子ども

の親もつかんでいかないと難しいね。

E 共同保育では自分の親がわりを子どもは期待してくると思ふの。私はそこはおかしいな。っておもふけど。

B でも、最初はそうだと思ふけれど。

A 最初はね。でもその違いはだんだん判つてくるしね。

F 泣いてる子をどうしたらいいか本当に考えるし、その親がどうして欲しいとはっきり出さないと、だめだと思ふ。はつきりとしてくれればその問題からも糸口がつかめるし、話し合いが広がるけど、そんな事もなく自然に成長して「はい、泣かなくなり

ました。」で終りになつちゃう。

A 全然、生活やタイプの違う女の集まり合

だし、やっぱりそんなところからでも糸口はあつて、少しづつでもお互いを判り合えるんだと思ふんだけど……。

やっぱり母と子一体でよして思つて入つてくる人には子どもが泣いている状態は堪えられないだろうと思ふよ。だけど誰でも始めはそうでしょう。

D 私のところはすごくやっぱり泣いた。私が

泣き止まらなかったからかな。今はあの時が嘘みたいに泣かなくなつた。

国立婦人教育館

= その後 =



会館からの返書(前号参照)で約束の話し合いの機会」ということの「託児問題についての懇談会」というのが、3月3日、会館にて開かれた。

△出席者の紹介▽

試験的に使っていた「山田さん(あふあ)の会員でもある方」。「生涯教育センター」の吉成さんと吉田さん、地元「菅谷小PTA」の市川さんと石原さん、「あふあ」からは幾代と古知、の4グループ。その他、託児室つき市民・婦人講座を開いている「国立市公民館」の伊藤さん(かの「子どもからの自立」と新しく「女の現在」を著した方)。乳幼児に関する電話相談をやっている「横浜乳幼児家庭教育センター」の菊池さん。「主婦連」の「主婦会館」を運営し、そういう婦人会館100ぐらいの全国組織の「全国婦人会館協議会」の中村さん、この方は「国立婦人教育館」に関する懇談会(51年3月52年3月まで設置)の構成メンバーでもあった方。そして菅谷小PTA講演会の際に手伝い、もしかしてこれから、会館の託児室運営に人的協力を要請され(もうすでに要請され、具体的な話し合いだと思っ

いたらしいが、館側は、そんな具体的なことは話しを進めていないと主張、ちょっとしたズレがあり、館の一貫性のなさがバレた感じだった。あるかもしれない、地元の「東昌保育園」の保母の さん。

間の配慮があまりなされていなくて、ただありますという感じだ。つまり、空間はあるけれど思想がない。という指摘があった。又、「子どもがいること」の中に泣くとか汚すとかを含めて当然なのだから、暖い目で見たい。の意見も。

△会議のもたれ方▽

まず、今日の会議に向けて、館長から説明があり、「とにかく何も決まっていらない、皆さんの話を聞いてから」としきりにゼロからのスタートを強調。託児室利用希望がとても多いこと、縫田さん個人としても婦人の学習参加と同時に児童福祉の子どもからの視点をも加味したものとしたことを述べられた。特に、53年度としては、宿泊棟は子ども用に設計されていないので除外して、会議室等のある研修棟、つまり日中の託児室運用について主に話し合いたいこと、又、常勤の保育者については、公務員の定数を変えるのは非常に難しいこととの説明があった。

「生涯教育センター」は、「親がみるのは当然だから、専門の保育者は必要ではなく、自主保育でやる」とのこと。「子どもは創造的で動くものだから、自由な空間が必要。会館全体を認めてほしい。おもちゃをこわさないようにと言われたので、持参した。」との答えに、館側は「そんなことはない」と懸命だったが、さもありなんという感じ。

△使用グループからの要望や意見▽

私たちは、早速、「日帰り利用のみか」という問いを発したけれど、「そう限ってしまいうわけではないが、今日のところはその線で考えたい」とか、「少しずつ開いていきたい」とか、「全て含めてゼロなので、何なりと言ってくれ」とか、態度はあいまいだった。「あふあ」からは、「全体的な建物の規模の割に託児室が小さすぎるのではないか。空

△託児室運営についての意見▽

「横浜乳幼児家庭教育センター」の方からは、「子どもの場としては、何よりも心の安定をはかるべきだ。技術的にはいろいろ考えられるのではないか。」との意見があった。「国立市公民館」の伊藤さんからは、「保育者のチームワーク、実際に子どもと接しない外側の人の受入れ体勢、館と母親とのコミュニケーション、子どもが納得するような伝

署名集め

= その後 =



集計の中間報告です。4月12日現在、965名まだまだガンバリましょう。送り忘れはありませんか? 50とか30とかまとまって下さる方もあります。職場で、昔の同級生や遠い友だちにも、公園で、公民館で……。

るか、生身で感じ取るか、子持ち専業主婦というイメージを自分でどうやって乗り越えていくか、どこまで自分を多くの人へ開いていけるか、……等々、楽しみではありませんか。ひとつのいいきっかけとして、やってみませんか。

3月末頃、女たちのミニコミやグループに協力をお願いしました。ポチポチ反応があり、又、永六輔氏は快く協力を申し出て下さいました。3月23日の国会運輸委員会でも横山ノック氏が国鉄に「オッパイ列車」を質問をしたそうです。岡山県の母乳運動団体からの要望らしいです。(岡山県の会員の方、至急関連情報を下さいませんか?) これらを含めて今後どういう形ですすめていくか提案して下さい。今のところのスタッフの家としては、ゴードンウィーク頃、(5月5日)子どもの日に、歩行者天国で署名集めを、5月末頃署名

かを御紹介します。文中略は御了承を。★私の住んでいる住宅は名古屋出身の方が多く、今回の署名も集めやすく、それでも全部で15名。全く関係のない方も快く署名して下さい。いろいろなきがかりがありました。この署名がどのように活かされていくか、15名に返事をしなくてはなりません。交渉の結果を情報誌に詳しくのせて下さい。

△館側の姿勢を問う▽

館側から、「外庭の遊具はどんな物が必要か。」「保育者は保母資格が必要か。」という質問があったが、そんなこと以前の問題として、館の基本姿勢や方針、つまり「日帰り」の点に私たちは固執したけれど、明確な撤回は得られず、「53年度は原則として、託児室は日中利用にしたい」とのこと。時間切れ。会議終了後、縫田館長は、「東京へ出た時、是非立寄って話したい。」とおっしゃったが、未だ連絡はなく、懇談会の次の設定もあるのかないのかも決まらず、会議は終始、館全体の基本的な考え方を問題にする人たちと、とにかく具体的なこまかいことを問題にしたい人たちとで、かみ合わず、こちらからの積極的なアタックをしていくしかないと思われる。次の策を考え合いましよう。(古知)

△署名した方々の意見……▽

★署名した方々の意見……①禁煙車輦と同じようにベビー車輦を設ける ②肘かけを動かせるものにする ③新幹線だけでなく他の路線にも配慮してほしい。(埼玉県坂戸市)

★新幹線とは健康な成人の孤立主義そのもののような作りで、驚きあきれていました。

★この署名は当地に来て3年目の私にとってもう一つの大切な意味がありました。同じ子持ちのなかなか胸の内を話し合えるキッカケがなかった何人かの近所の主婦の人達との話す糸口を与えてくれたことです。(宮城県)

あんふあんてレポート

= ゴミのはなし =



渋谷区

なにげなくポリバケツや紙袋に入れ、出しているさまざまなゴミ。もしそのゴミの収集にポリバケツ1杯200円、紙袋1袋150円と、有料になったら、さて……どうしますか？
ゴミは決った日に決った場所へ出しておけばいいの間に、かたづけられているもの……と思っているし、まさか……有料になるなどと考えていないかもしれません。このゴミ決してタダではありません。

東京都を例にとってみると、ゴミの収集、処理に1日当り、2億6700万円近くの税金が使われています。52年度で806億余りです。1日のゴミの量は23区でゴミ容器に入れて山手線を22周、たてに積み重ねると富士山の230倍になります。このポリバケツ1杯を収集・処理するのに200円近くのお金がかかっているわけですね。つまりゴミにも値段がある

というところで、あなたが今日だすゴミとひきかえに200円税金というお金で払っているわけですね。これも東京都の例ですが、一家庭で1日平均10キロ以上のゴミを出せば、超過手数料として1キロにつき15円支払わなければならないし、つまりポリバケツ1杯20キロです。から2日で1杯以上のゴミを出せば現在でも有料ということですね。



捨てた理由を調べてみると「腐った」「鮮度が落ちた」「湿った」などがあげられますが、冷蔵庫を過信しすぎて、つい買いすぎが、こんな結果になるようです。これを金額に換算すると10日間3069円、年間11万円。捨てられていくトップは野菜類ですが主食も多く、捨てる回数が多い家庭ほど、1回の量も

多く、平均量(米)で1回175グラム。お茶わんで1杯半。全国で42%近くの家庭が2週間に1回づつ捨てていけば、80億円というお米が年間捨てられていくわけですね。



たかがゴミと考えがちですが、ゴミはひとりで灰や土に返るわけでもなく、その処分地に限度がある現在、生活の豊かさにとってもないゴミ化していくものがふえていく中で、何をどう捨てていくかを一人一人が考えていく必要がありそうです。

ゴミと考える前に、物の流れを通して何故それがゴミとなっていくかを考えていくべきでしょう。自然からとれた物が加工され、流通を経て捨てられ、自然の中へ戻る。燃える物は燃やされ、燃えない物は埋め立てられ、流れる物は流され……となっていくわけですが、すべての物は、全部私達の環境の中へ又、戻ってくるわけですね。いいかえれば地球は大きな「ゴミだめ」になっているわけですね。が、この廻り廻る循環の中に私達の選択が、必要なのです。自然から元へ返る時に、環境を汚さない方法、資源を・自然を削りこわし

たまで返さない方法、それらを考えないで捨て続けていけば、この生活の中にさまざまな汚染というツケになって返ってくるしかないのです。何をどう捨てていくかは、何を選び、何を守っていくかの、私達の生き方、そのものへの問いかけなのです。



ゴミ……そのリサイクル(再利用)

ゴミが自然から生まれ自然へ戻っていく、この単純な事を、いかに負荷をかけないで返していくか、つまり自然に戻す事をあらかじめ考えていけませんか？使ったら消えてなくなるのではなく生かして使って、我々と共に生きよう……と考えられているのがリサイクル(再利用)です。その再利用のなかで一番身近な古紙を例にします。

私達の生活から排出されるゴミの30%が紙類です。わが国の古紙回収率は40%近くにありこれは世界でも高水準の回収率です。家庭で読み終った新聞1年分は立木1本分にあたり古紙1トンは立木20本分に相当します。新聞・雑誌・ダンボールなどは紙交換や買出人を通して再び製紙され、原料となり新しい製品へと生まれかわります。この製品は私達の身の廻りに多くあります。トイレットペーパー・紙テープ・マンガ本から絵本・アルバム・靴箱・色紙など数えあげたらきり

がありません。手近にある古紙は天然資源のバンプになる、街の森林といえましょう。そのうえ木材からバンプをつくり紙をつくるのにくらべ、生産工程がはぶけ、水や電力の使用量も少なく、古紙を上手に回収することが森林資源を保護し、エネルギーの節約へとつながっていきます。

このように再利用されていく物は、身の廻りに数多くありますが、回収を一人一人がばらばらに行なうのではなく、地域が一体となって実行していくことに大きな意義があります。それも行政側からの指図を待ってというのではなく、その地域の環境に合わせて自主的に自分達の物は自分達が大切にしていこうという姿勢が必要です。子どもの公園にこんな物が欲しいからと始めた回収が、いつの間にか定着し、地域に一つのコミュニティ・アクションの場をつくり利益を地域に還元していく。以前だったら横のつながりのある地域に自然に生まれた回収作業が今はその作業を通して逆に横のつながりを広げていっています。自分達の生活の場を自分達で整えていく。生産する側、消費する側とわけて考えないで、まず消費する側が出来るところまでやり、生産側へ、行政側へそのなかから要望や要求を出していく、廃棄物への負荷を生産者も消費者も行政側も三者が一体となつてとりあうことが必要なのです。各地によって再利用運動への行政の援助は違うでしょうが、回収・運搬などの費用援助が受けられたり地域ごとの運動はこれからますます広がっていくでしょう。なによりも大切なことは、地域社会を自分達の手でつく

っていくその第一歩に、この運動がはたす役割を考えないではいられません。

もう一度、今日、ゴミ箱をのぞいてみませんか。お茶ガラや卵殻などの捨てざるおえない物にまじって多いのが、ビニール袋やスチロール製の容器です。スーパーで魚や肉のパックづめを買い、それをビニール袋に入れ、紙袋につめ、その上に手さげに入れる。野菜1つにしても、むき出しで求めることはなく、二重、三重に包装してあります。ノーバック運動を知っているでしょうが、二重、三重の包装がコストを上げゴミをふやし、資源を削っていきます。買い物先で、1つビニール袋を減らす事が、又、あらかじめ袋や容器を用意していくことが、ゴミを少なくする第一歩につながります。買えば、袋を手渡されるからではなく、買う側の私達が1つ1つを拒否していくことで、生産する側や売る側が変わってくるのです。

ゴミは誰かが処理してくれるものではなく、莫大な税金や資源を使いはたしながら処理されていくことをあらためて思いなおしてみたい。

(資料として、NHK教育文化シリーズから東京都清掃局パンフレット)



「離婚を考えるグループ」より



前号の情報誌に「離婚を考えるグループ」に寄せられた手紙が載りましたが、今回は、「元祖離婚女」という感じで私の所に順番が回ってきました。彼女の手紙を読んで、「やっぱりそれは疲れるよ」と思いました。私だって、この広い東京で力になつてくれる友人がいなかったら、今頃は泣いて北海道へ帰っていたのだと思うもの。核家族化された今の社会の中で、結婚から外れて女が子連れで生きていくためには、ひとり頭張り続けるか、肉親のもとへ帰って行くか、さもなくば生きて行かれないというのが現実なのだから。

女の存在意義がすべて結婚に集約されている時、離婚はあらゆる女の問題を投げかけるはずなのに、いわゆる家庭の事情とかで、それぞれの離婚が個別的で特殊なものとしてしか扱われません。だから、「離婚の理由は？」と聞かれて説明しても「わかってもらえなかつた」という気持ちが残って、妙にしらけたりもするのです。結婚がこわれていく時、その過程や事情は当事者である女と男にしかわからないという思いこみがあるからなんです。他人にはわからないと思っていれば、何もかも自分ひとりで背負いこんでしまふだろうし、

まわりをみている余裕がなくなるから孤立して、ついには挫折してしまうのだらうと思います。それは準備を周到にとのえて離婚することによって解決するものだろうかとは考えこんでしまいます。

そこで、飛びたがっている女をささえるものを、血のつながりではなく回りにいる仲間と創っていかねばならないかと、非常な意気込みをもって始めたわが「離婚を考えるグループ」ではあります。最近はどうも低迷・沈滞ぎみです。メンバーが距離的に点在していることや私が言葉たらずであった点も原因なのではないでしょうか、こしばらくは開店休業。少し後退しているいろいろ模索してみよう。

さて、かくいう私も、離婚2年目にして時には疲れが出ることもありまして、「家の中の事や子供の事を誰かが一手に引き受けてくれたらなあ」と考えて、「成程、世の中に疲れた女と男がいる限り、結婚はバラ色の夢をもたらしものであるなあ」と勝手に理屈をつけておきます。それでもなお、私は「二度と結婚はしない」と言い続けます。誰かもうひとりの事を思いわずらわずに、自分のことを自分で決められるこの気ままさを結婚生活ととりかえっこする気は今のところ全くないから……

私は男友だちは何人いても楽しいけれど、その誰とも一緒に暮らさないし、ましてや結婚などしない友人たちに言っています。互いに主体性をもった関係を作っていくためには、生活を別にした方がよいというのが信条みたいになっていて、口の悪い連中から「やたらにつっぱっているだけだ」と言われなが

らも、めげずに意地をはっています。

誰かと一緒に暮らすことはお互いの生活に對峙させて生きることだから、衝突することの方がよいでしょう。そこでどちらかが一歩下がることになるのだけれど、何故か経済力のない方が一方的にひき下がるというパターンが出来上がっているのです。それがイヤだし、経済力が対等で、家事・育児を一生懸命男がやるならそれで良いというわけでもなく、ここはひとまず距離をおいて緊張関係を作っておくとも言うたらいいのかなあ。ひとりでも生きられる女と、ひとりでも生きられる男というイメージで私はとらえているのだけれど、そんな関係を創りたいので生活を別にした方がよいと考えています。

ただ、しばらく前に年上の女の人から「相手と一緒に暮らして、とことんかわっていった方がひとりの人を理解する上で大切なことではないか」と言われて、それがずっと私の心の片隅にひっかかっています。私は距離をおくと言いつつ実は逃げているのではないかと……。でも、私は互いに独立した生活をしながら関係を創っていくことにこだわりつづけたい気がします。だからその相手とは、一緒に暮らさなくとも、長い時間をかけて、しつこくかわっていくつもりでいます。

職業訓練校での6ヶ月の訓練を終り、次の仕事を始めるまでに2週間のゆとりがあつて、ずっと家にいたのだけれど、だんだん気が滅入ってきて、「私はますます結婚生活には向かない女になるなあ」という実感とともに生きていく今日この頃です。

情報コーナー

★やる気のある仲間を募集します

今の幼稚園に疑問のある人、舎屋のない外遊び中心の青空の下で、おひさまの会を作りますか？（電話は午前中のみ）

★友達・情報を求めています

4月27日に関西より引越す予定です。近くの方、お友達になつてください。4歳男児、1歳半女児があり、ヘルパーし合えればなお嬉しいのです。また、長男のために幼稚園、保育園の情報を求めていますのでよろしく。

★共同保育の仲間を求む

私達石神井グループでは週に3日各自の自宅をもち廻りという形で共同保育を始めました。現在は石神井公園、大泉学園付近のメンバーが中心です。これをもっと充実させ、各自がもっと自分の時間をとれる様に発展させたいと思っています。子供達にとっては、昔の大家族の共同生活的な良さを与えたく、年齢差のある子供集団をつくり、屋外でのびのび遊ばせる様にしたいと思っています。やる気のある方、連絡下さい。

★着付教室のお知らせ

グループの皆様で御希望があればお教えします。子供がいても支障はありません。午後から週1回2時間3ヶ月です。出張します。

★会員募集をしています（南神奈川グループ）

小田急沿線、相模大野駅付近の方。2歳以上の子供は保育室へ預けて、以下の子供は母親の元において勉強をしています。

★ベビーバギーを譲って下さい

★資生堂製品ボイコット宣言

朝日新聞2月22日付「ひと」欄に、資生堂の新社長に就任した山本吉兵衛氏が、「今年からは男ばかり50人の大卒を採用した」と誇らしげに語り、更に「子供以外、ものを作るのは男の仕事です」とインタビューに答えています。資生堂ではものを作る工場部門の大部分は女性の従業員で占められており、事務、営業販売部門などいたるところに女性が働いていることは周知の事実です。日本の雇用労働者の3分の1は女性、農林漁業をふくめればものを作り出す仕事の半分は女性が背負っているのです。にもかかわらず、平然とこのような発言をするとは、山本氏のみならず資生堂が女性の労働の価値を認めず、ただ使い捨ての労働力としか考えていないことを自ら暴

露したといえましょう。以前から資生堂では多数の女性を雇用しながら、採用、労働条件、賃金などのあらゆる面で性別差別が多いと聞いていますが、このような女性に対する偏見をもつ経営者をいただく以上、当然あり得ることといえましょう。国際婦人年に国連で採択された世界行動計画は「女性も男性と同じように労働権を認められなくてはならない」「男は仕事、女は家庭という男女の役割分担を排除しなければならぬ」とうたっており、日本の政府もまた、この理念に基づいて、女性の地位向上と社会参加の促進のため国内行動計画を策定しています。私たちは、資生堂ならびに山本社長のあまりに時代錯誤的な女性に対する姿勢に憤らずにはいられません。女性を対象とする製品を製造し多額の利益をあげていながら女性の労働権を認めず、性別差別を行っていることを恥じようとしません。私たちは、そのような資生堂の方針に対して大きな怒りを感じると共に、このような企業で生産される商品そのものに対して不信の念を禁じ得ません。資生堂の製品の質や価格について、すでにいくつかの消費者団体が問題点を指摘しています。私たちの会は、この際山本社長の発言をきっかけとして、資生堂の女性に対する蔑視と偏見と差別に抗議するため、製品のボイコットを決議しました。

国際婦人年をきっかけとして

行動を起こす女たちの会

▲わわしいおんなVもろさわようこ著 未来社刊

日本の女の認識を新たにさせられる本です。いわゆる日本の女としての、室町期から徐々に体制的立場の男によって作りあげられ、江戸期の儒教的「女大学」で完成させられてしまふ。それまでの女は、男の不正には、わわしく喚き叫び、いかにも人間らしいものであった。だから現代の男達に「君達は、日本の女らしさというものを無くしてしまったのか？」と言われても、私達は、本来の日本の女に戻ってると、自信を持ってわわしくできる本である。(神田)

▲女性解放の思想と行動 戦前戦後編V 時事通信社 田中寿美子編

女の問題を漠然と疑問視していた事が徐々に解明されるようで、私は一気に読みおえた程おもしろい本であった。歴史的な歩みからわかりやすく書かれてある。男尊女卑の思想は女性を奴隷にするばかりではなく、男の正義心を麻痺させ奴隷的勇気や卑しい性格を植えつける。又、この思想は、男自身の中で、体質化していると書かれてあり、女の問題の根の深さを思ったのである。あんふぁんての中でもとり上げられていた、女だけの企業体「レディス・ボイス」や銀座に女だけが気楽に話せる場「スリー・ポイント」の事も紹介されていて親しみを感じた。(戦後編P208)

武蔵村山市

●「南大阪グループ」の連絡先が変更です。各自、グループリストを訂正のこと。

●払込用紙を同封しました、よろしく。特に督促状(?)の方は早めに連絡を下さい。

編集部から

●雑学考のつもりで書き始めたのだけれど、いつのまにかレポートになってしまいました。あちこち資料集めに飛び歩いている中で感じたのは、ゴミの問題が私達の心や体の問題であることです。企業や行政側の問題など探れば限らないことですが、今回は消費する私達の視点に立つてまとめてみました。それにしてもこれは大変な問題だなあ!としみじみ感じることもありました。

●廃品回収が共同保育やグループの資金、又はあんふぁんての運営資金にどこかで結びつかないかしら。その地域で行政側の援助は違うけれど、かなり積極的に助力してもらえそうです。地域でまとまりのあるところは一度システムを調べてみませんか。(矢郷)

●誤植スミマセン。前号の表紙の詩の「たいたん」は「れいたん」、作者は「」が正解。当のれいたんからの可愛い抗議でした。

★5月5日(金) 午後1時集合(雨天中止)
新宿西口公園噴水前

「新幹線にベビーコーナーを」署名集

●5月5日(金) 午後2時半
新宿西口公園噴水前(雨天「ホーキ星」)

保育問題研究グループ会合

★5月12日(金) 午後1時

杉並区産業館(阿佐谷駅南口5分)
共同保育連絡会

★入会申し込みは切手300円同封の上、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入宛先は「あんふぁんて事務局」です。

★参加費の払込は「あんふぁんての会」です。1ヶ月300円、なるべく6ヶ月以上まとめて、郵便局で払込のこと。現金書留や切手での納入はミスのもとですので下下さい。

★事務局の電話受付の時間は原則として月/金の11時3時ですので御協力を。

